

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 7 月 11 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/11 11:00 時点)

| 号機  | 注水状況      |                                 | 原子炉压力容器<br>下部温度 | 原子炉格納容器<br>圧力 | 原子炉格納容器<br>水素濃度 |
|-----|-----------|---------------------------------|-----------------|---------------|-----------------|
| 1号機 | 淡水<br>注入中 | 炉心スプレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h | 26.8 °C         | 4.1 kPa g     | A系： 0.01 vol%   |
|     |           | 給水系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h     |                 |               | B系： 0.00 vol%   |
| 2号機 | 淡水<br>注入中 | 炉心スプレイ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h | 35.1 °C         | 7.34 kPa g    | A系： 0.06 Vol%   |
|     |           | 給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h     |                 |               | B系： 0.03 Vol%   |
| 3号機 | 淡水<br>注入中 | 炉心スプレイ系：約 2.3 m <sup>3</sup> /h | 33.3 °C         | 0.23 kPa g    | A系： 0.03 Vol%   |
|     |           | 給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h     |                 |               | B系： 0.03 Vol%   |

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/11 11:00 時点)

| 号機  | 冷却方法     | 冷却状況 | 使用済燃料プール水温度 |
|-----|----------|------|-------------|
| 1号機 | 循環冷却システム | 運転中  | 27.0 °C     |
| 2号機 | 循環冷却システム | 運転中  | 25.7 °C     |
| 3号機 | 循環冷却システム | 運転中  | 25.4 °C     |
| 4号機 | 循環冷却システム | 運転中  | 23.7 °C     |

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

| 号機  | 排出元 →       | 移送先                              | 移送状況                   |
|-----|-------------|----------------------------------|------------------------|
| 1号機 | 1号機タービン建屋 → | 1号機廃棄物処理建屋                       | 7/10 9:49 ~ 18:35 移送実施 |
| 2号機 | 2号機タービン建屋 → | 3号機タービン建屋                        | 7/10 10:28 ~ 移送実施中     |
| 3号機 | 3号機タービン建屋 → | 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋]) | 6/16 14:42 ~ 移送実施中     |

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/11 11:00 時点)

| 設備       | セシウム<br>吸着装置 | 第二セシウム<br>吸着装置<br>(サリー) | 除染装置 | 淡水化装置<br>(逆浸透膜)  | 淡水化装置<br>(蒸発濃縮)  | 多核種除去設備<br>(ALPS) |
|----------|--------------|-------------------------|------|------------------|------------------|-------------------|
| 運転<br>状況 | 停止中*1        | 運転中*1                   | 停止中  | 水バランスを<br>みて断続運転 | 水バランスを<br>みて断続運転 | ホット試験中*2          |

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## < 5. その他 >

・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28～ 4/26 に全 17 本の凍結管の挿入作業、そのうち 13 本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全 17 本の凍結運転を開始。今後、凍結の壁を造成していく予定であり、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。

・H26/6/17 15:31 頃 屋外にある5号機残留熱除去系海水ポンプ※(A)のモータ下部軸封部より、油が漏えいしていることを当社社員が発見。漏えいは、床面に約3m×約0.5m×深さ最大約2mmの範囲であることを確認。その後、当該ポンプを停止したことにより油の漏えいは停止。15:46 双葉消防本部へ連絡。本件については、双葉消防本部より「危険物の漏えい事象ではない」との判断を受けた。また、当該ポンプ停止前に残留熱除去系海水ポンプ(C)を起動したことにより、原子炉の冷却は継続。

※原子炉の冷却水を冷やすための海水ポンプ

#### ○原因調査結果

当該電動機については、東日本大震災の際に津波の影響により損傷を受けたことから、震災後の H24/7 月に新品に交換している。電動機はオイルパー対策として気抜き管内に金属製ウールが挿入されているが、交換した電動機については、従来品の金属製ウール(カールケート)に比べ目の細かい金属製ウール(スチールウール)が使われていたため、潤滑油の継続使用によるオイルパー発生量の増加(潤滑油使用可能範囲内)に伴い、目詰まりを起こし当該漏えい箇所より漏えいしたものと推定。また、同時期に交換を実施した残留熱除去系海水ポンプ(C)電動機についても目の細かい金属製ウール(スチールウール)が使われていることを確認。

#### ○再発防止対策

・従来品の金属製ウール(カールケート)に交換を行い運転確認を実施。(7/8実施済み)

・当所において金属製ウールを使用している電動機について、従来品の金属製ウール(カールケート)が使われていることの確認を実施した。

・オイルパー対策品の電動機を購入する際には、適切な金属製ウールが挿入されていることを確認。

・H26/7/11 10:18 6号機については、燃料管理の一元化を図り6号機全体の安全性を高めることを目的として、原子炉内の燃料集合体を使用済燃料プールに移動を実施。燃料プール冷却浄化系の冷却範囲を使用済燃料プールに限定するため、7/8原子炉と使用済燃料プールを隔てるゲート(プールゲート)を閉鎖\*。使用済燃料プールゲート閉鎖後の原子炉ウエル水抜き作業のため、7/11,10:18 に冷却を停止(停止予定時間:7時間)。なお、冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 24.0℃。冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.291℃/hで、停止中のプール水温上昇は約 2.1℃と評価されることから、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上に問題ない。

\*使用済燃料プールゲート閉鎖作業は、震災前の定期検査時にも行っていた作業であり、実績を有する作業

・H26/7/11 15:30 頃、6号機原子炉建屋6階の燃料プール冷却浄化系の弁付近にて水が漏えいしていることを当社社員が発見。漏えい範囲は約 1m×約 0.5m×深さ約 1mm。

#### 【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

#### 【H4,H6エアータンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### 【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

・7/10 に初めて採取した1～4号機タービン建屋東側の地下水観測孔 No.1-15 の測定結果は以下のとおり。

<地下水観測孔 No.1-15 の測定結果:7/10 採取分>

・セシウム 134 :検出限界値未満(検出限界値:0.49 Bq/L)

・セシウム 137 :0.88 Bq/L

・全ベータ :110 Bq/L

・トリチウム :74,000 Bq/L

・その他のサンプリングについては、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上